

第4回 横浜市山下ふ頭再開発検討委員会 会議録	
日 時	令和6年7月12日（金）10時00分～12時00分
開 催 場 所	横浜シンポジア（産業貿易センタービル 9階）
出 席 者 ※五十音順 ※敬称略	<p>石渡 卓（神奈川県大学理事長） ※ウェブ参加</p> <p>今村 俊夫（株式会社東急総合研究所代表取締役会長）</p> <p>内田 裕子（経済ジャーナリスト、イノベディア代表）</p> <p>河野 真理子（早稲田大学法学学術院教授）</p> <p>坂倉 徹（横浜商工会議所 副会頭）</p> <p>幸田 雅治（神奈川県大学法学部教授） ※ウェブ参加</p> <p>高橋 伸昌（関内・関外地区活性化協議会 会長）</p> <p>宝田 博士（協同組合元町エスエス会 理事長）</p> <p>田留 晏（神奈川県倉庫協会 会長）</p> <p>デービッド アトキンソン（株式会社小西美術工藝社代表取締役社長）</p> <p>平尾 光司（専修大学社会科学研究所研究参与、昭和女子大学名誉理事）</p> <p>藤木 幸太（横浜港運協会 会長）</p> <p>村木 美貴（千葉大学大学院工学研究院教授）</p> <p>涌井 史郎（東京都市大学特別教授）</p>
欠 席 者 ※五十音順 ※敬称略	<p>北山 恒（建築家、横浜国立大学名誉教授）</p> <p>隈 研吾（建築家、東京大学特別教授・名誉教授）</p> <p>藤木 幸夫（横浜港振興協会 会長）</p>
開 催 形 態	公開（傍聴者19人／記者19人）
次 第	<p>1 議 事</p> <p>(1) 前回委員会後の市民意見等の説明</p> <p>(2) 事務局の説明</p> <p>・前回の補足説明</p> <p>・ファクトシート「国内外開発事例編」について</p> <p>(3) 地域関係団体委員の意見書の説明</p> <p>(4) 学識者委員プレゼンテーション</p> <p>(5) 意見交換</p> <p>(6) その他</p>
決 定 事 項	委員長は平尾委員に決定した。
議 事	別紙
資 料	<p>当日配布資料</p> <p>(1) 横浜市山下ふ頭再開発検討委員会 名簿</p> <p>(2) 前回委員会後の市民意見等</p> <p>(3) 前回の補足説明</p> <p>(4) ファクトシート【国内外開発事例編】</p> <p>(5) 地域関係団体 意見書</p>

第4回 横浜市山下ふ頭再開発検討委員会 議事

【事務局】

これより、「山下ふ頭再開発検討委員会」を開催します。

私は、事務局を務めます、山下ふ頭再開発調整課長の周治と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

お手元の資料を確認させていただきます。次第、名簿、前回委員会後の市民意見等、前回の補足説明資料、ファクトシート【国内外開発事例編】、地域関係団体意見書を配付しています。よろしいでしょうか。

開催にあたりまして、横浜市副市長の平原よりご挨拶申し上げます。よろしくお願ひします。

【平原副市長】

皆様、おはようございます。今日はお忙しい中、また足元の悪い中、山下ふ頭再開発検討委員会に、オンラインでのご参加も含めご出席を賜り、誠にありがとうございます。

委員の皆様におかれましては、日頃より横浜市の発展にお力添えいただき、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

昨年8月に初めてこの委員会を開催して以降、3回の委員会を通じまして、学識経験者の皆様からプレゼンテーションをいただいて参りました。また、地域関係団体委員の皆様から、再開発に対するお考えを意見書として頂戴いたしました。これらを元に、様々な視点で活発なご議論をいただいておりますことに改めて感謝申し上げます。

さて、横浜市でございますが、令和3年をピークに人口が減少し、今後は生産年齢人口の減少、少子高齢化が更に進み、市内経済の活力低下も懸念されております。さらには昨今の自然災害の激甚化・頻発化に加え、深刻化する気候変動問題に対し脱炭素をはじめとする地球温暖化への対策が強く求められるなど、時代が大きく転換期を迎えています。こうした中で、山下ふ頭の再開発は、横浜経済をけん引し、都市ブランドを高めるまちづくりの象徴として、今年度も引き続き、皆様方の豊富なご知見をいただきながら取り組んでまいります。そして、市民の皆様からご理解をいただける、事業性のある再開発の実現を目指してまいります。

この山下ふ頭再開発ですが、横浜市全体の発展にも大きくかかわる大変重要なプロジェクトです。令和3年度から、市役所内の横断的な体制として、関係区局による庁内プロジェクトを設置しております。本日は、プロジェクトメンバーである関係区局も参加しております。横浜の活力を未来に繋げていくため、港湾局と関係区局が一丸となって市役所一丸で取り組んでまいります。

本日の委員会では、前回に引き続き、地域関係団体の委員から意見書のご説明、学識者委員からのプレゼンテーションをいただくこととなっております。委員の皆様方におかれましては、横浜を象徴する美しいウォーターフロントを舞台とした再開発により、新たな価値が創造され、世界の人々を惹きつける魅力的なまちづくりとなるよう、それぞれのお立場から、是非、自由なご議論をお願いいたします。

本日は、どうぞよろしくお願ひいたします。

【事務局】

ありがとうございました。

本日の委員の皆様の出欠状況についてご報告させていただきます。

まず初めに寺島委員についてですが、ご本人からの申し出があり委員を辞任することとなりました。

したがいまして、委員17名の内、WEBでご参加の石渡委員、幸田委員を含め14名の皆様に、ご出席いただいております。

北山委員、隈委員、藤木幸夫委員はご欠席でございます。

条例第4条第4項に基づき、これより先の議事進行は、前回、委員長代理として進行いただいた石渡委員にお願いしたいと思ひます。石渡委員、よろしくお願ひします。

【石渡委員】

承知いたしました。おはようございます。

今、事務局からも報告のあったとおり、寺島委員が辞任されました。したがいまして、改めて委員長を選出するに当たり、条例第4条第2項に基づき互選により選任したいと思ひます。

どなたか委員長のご推薦はございますでしょうか。

【涌井委員】

はい。涌井と申します。

【石渡委員】

涌井委員、どうぞ。

【涌井委員】

まずは事務局にお考えはございませんでしょうか。

【石渡委員】

事務局はいかがでしょうか。

【事務局】

事務局の山下ふ頭再開発調整担当部長の洞澤と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

ご実績やご経験から学識者の平尾委員にお願いしてはいかがかと考えております。

【涌井委員】

ありがとうございます。

私も平尾委員は金融機関の経営陣でもありましたし、併せて諸外国の事情にも精通されておられて、港湾の再開発についてもご知見をお持ちなので、私個人としては大賛成をいたします。

【石渡委員】

ありがとうございました。

ただいま、事務局並びに涌井委員から推薦のご提案がございました。私としても、今まで臨時でやらせていただきましたが、今のご意見を含みおいて平尾委員に委員長をお願いしたいと思いますが、皆様いかがでしょうか。

【(委員一同)】

異議なし。

【石渡委員】

ありがとうございます。

異議なしのお言葉をいただきました。それをもとに平尾委員に委員長をお願いしたいと思います。これにつきましては、これで平尾委員に承認ということにさせていただきたいと思います。円滑な議事進行にご協力いただきましてありがとうございました。

それでは事務局にお返しいたします。以上です。

【事務局】

石渡委員、ありがとうございました。

ここで、委員長席の移動を行いますので、しばらくお待ちください。

報道関係者の皆様方にお知らせします。報道関係者の皆様方は、報道撮影エリア内での撮影にご協力をお願いします。

傍聴者の皆様方は、撮影や録音等はお控えくださいますようご協力をお願いします。

それでは、平尾委員長、一言ご挨拶をお願いします。

【平尾委員長】

ただいまご指名いただきました平尾でございます。着座のままご挨拶させていただきます。

寺島委員長が諸般の事情から辞任され、残念でございます。

私は寺島さんとはニューヨーク時代、30年前から色々なご懇意をいただいております。寺島さんの横浜市や山下ふ頭に対する思いもより理解しております。そういう意味で、今回寺島委員長の後を引き継ぐことになりましたので、寺島さんの思いも引き継いで参りたいと思います。

山下ふ頭の問題は先ほど平原副市長からお話がありましたように、横浜市にとって、あるいは日本経済にとって非常に大きな、貴重な場所であり、47haの広い場所をどういう風に利活用していくかというわけでこの検討委員会を進めてきたわけです。振り返ってみますと、1970年代に横浜市が人口の急増と環境問題の悪化と、あるいは社会インフラの整備の遅れということで、六大事業という目標を作られました。それによってベイブリッジ、あるいは地下鉄、あるいはみなとみらいという壮大な都市建設が進められて、それが今日の横浜の繁栄を導いているわけでございます。

しかし、今大きな環境が横浜市を取り巻いており、その中で人口の減少、あるいは財政の厳しい環境等があり、また同時に価値観の多様化、それからSDGsに言われるような環境問題が課題になっています。その中で山下ふ頭の利活用をどうするかということが課題になっています。そういう意味では、この委員会におきまして学識経験者、それから地域の関係団体の委員の方々の忌憚りの無いご意見を今まで展開してまいりましたが、さらに踏み込んで議論を今後展開してまいりたいと願っております。

山下ふ頭の47haは、横浜市だけではなく日本にとって非常に大事な戦略的なポイントになっていくということで、イノベーションの実装、あるいは防災拠点の強化、あるいは市民の楽しみの場所という色々な課題をあそこの場所で展開していくことになろうかと思えます。そういう意味で、山下ふ頭の考え方はやはり市民による、市民のための市民の山下ふ頭の再利用ということを考えてまいりたいと思えます。

山下ふ頭に隣接する山下公園につきまして、皆さんご存知かと思いますが、100年前の関東大震災の時に横浜市のカレキを市民が運んで山下公園を作ったということです。今後市民の参加による山下ふ頭の再開発ということはこの場の学識経験者と地域団体委員の皆様方との活発な意見交流をさらに深めていただきまして、最終答申にまとめていきたいと思っています。皆様方のご協力どうぞよろしくお願い申し上げます。以上、私のご挨拶とさせていただきます。

【事務局】

ありがとうございました。

本日も、公開での開催となっており、会議の様子及び説明資料については、インターネット中継により配信されます。

なお、会議の様相を記録するため、事務局側で写真等を撮らせていただきますので、予めご了承いただきたいと思えます。

それでは、これより先の進行は、平尾委員長にお願いしたいと思えます。平尾委員長、どうぞよろしくお願いいたします。

【平尾委員長】

わかりました。

それではこれから議事進行を担当させていただきます。

まず、本日の会議のタイムスケジュールですが、お手元の議事次第をご確認ください。

議事（1）を3分程度、議事（2）が10分程度、議事（3）が高橋委員からの意見書の

ご説明を、10分程度を目安に行っていただきたいと思います。議事（4）につきましては、学識者委員のプレゼンテーションとして、幸田委員と内田委員から10分程度ずつ行っていただきたいと思います。全体的な議事の終了後、意見交換を十分時間をとっておりま

すので、皆様の活発なご意見をお願いしたいと思います。

それでは、議事（1）に入ります。事務局からご説明をお願いいたします。

【事務局】

それでは、前回委員会後にインターネットフォームに寄せられました市民意見についてご説明させていただきます。お手元の資料2をご覧ください。

委員の皆様には、事前に本資料をお送りさせていただいておりますが、1から2ページは市民の皆様からのご投稿をまとめたもの、3ページ以降は市民の皆様からのご投稿をそのままつづった資料となっております。本日は、資料の1・2ページをご説明させていただきます。

1ページをご覧ください。受付期間は、前回委員会開催日の1月12日から7月9日までとしています。

意見数は、55名の方から111件いただいております、ご投稿いただいた方の居住地は、市内在住の方が54名、市外在住の方が1名となっております。なお、山下ふ頭再開発に関連しないご意見等は除外させていただいております。

「3 御意見の主な内訳」をご覧ください。

「(1) まちづくりの方向性に関する御意見」については、

- ・今後の横浜のイメージを確定する重要な案件のため、地域活性・観光・防災を考慮したイメージ戦略を基盤として必要な事業を考えるべき
- ・横浜にしかない開港以来の美しい歴史的景観や財産と調和する、100年後も世界に誇れる都市デザインを実現してほしい
- ・「横浜らしさ」の愛着と誇りをもち、市民参画による市民のための、豊かで持続可能な都市づくりを推し進める

などのご意見をいただきました。

資料の2ページをご覧ください。

「(2) 導入機能に関する御意見」については、

- ・山下ふ頭へのアクセスは良くないので、横浜駅から山下ふ頭をつなぐLR Tや自走式ロープウェイなどの利便性向上と脱炭素や省エネにつながる新交通
- ・「インバウンドの来日目的は観光だけでなく日本らしさである」という意見があるので、日本の文化・伝統を見学、体験できる複合施設
- ・交通アクセスの強化を図り、広大な開発空間を活かした、アジア地域の中心を担う世界的な超大型展示場

などのご意見をいただきました。

「(3) その他の御感想等」については、

- ・山下ふ頭に他にないものをつくる、広く横浜に足りないものをつくるという意見に賛同

- ・横浜市の財政も踏まえて、市の収益が確保でき、事業が継続性を持つことは必須
- ・横浜市各局を横断する市内総合調整組織を作り、この計画を横浜市が総力を挙げた一大プロジェクトとして取り組むべき

などのご意見をいただきました。

説明は以上となります。

【平尾委員長】

ありがとうございました。

続きまして、ファクトシートの国内外の開発事例を事務局からスライドでご紹介いただきます。

【事務局】

前回の委員会でご説明させていただいたファクトシートにつきまして、補足説明を今回させていただければと思います。

前面のスクリーンに映し出す資料でご説明させていただきますが、同じものをお手元にも資料3として配付してございます。

まず、「世界、アジアの人口動向」について、増加傾向にあるとご説明させていただきましたが、北山委員から、基本的に都市化が進んでいる地域では人口減少が進んでいると思うので、アフリカ、欧州、北米の人口動態を確認したいとのお話がありました。

こちらが、前回のグラフにアフリカ、欧州、北米を追加したグラフです。

3地域を引き抜いたグラフがこちらになります。

北山委員のご指摘のとおり、アフリカは増加傾向、北米は微増の見込みとなっていますが、欧州は2020年をピークに減少の見込みとなっています。

次に、「横浜経済圏（横浜市）の産業構造の変化」について、平尾委員から、企業の数や産業別にどうなっているのか、その中でイノベーションを担う企業がどの程度存在しているのか、示して欲しいとのお話がありました。

こちらが、産業別の事業所数を1981年から概ね10年ごとにまとめたものです。

左上が横浜市の事業所数です。東京都特別区部、大阪市、名古屋市は、概ね減少傾向にあります。横浜市は概ね横ばいとなっています。

こちらのスライドの左側は、イノベーションを担う学術・研究開発機関の事業所数の推移を、右側は全事業所数に占める割合をお示ししています。

横浜市の学術・研究開発機関の事業所数は、名古屋市、大阪市と比較するとやや多い形となっています。

次に、横浜市の財政状況についてご説明させていただいた際、涌井委員からふるさと納税の流出額を確認したいとのお話がありました。

こちらがふるさと納税の流出入額の推移で、左が流出額を、右が流入額をお示ししています。

横浜市からの流出額は約272億円となっており、全市区町村の中で流出額トップとなっています。

なお、横浜市を含む地方交付税交付団体は、流出額のうち約75%は、国からの交付税により、補われています。

最後に、先日、委員から道路計画として臨港幹線道路について説明をいただきたいとお話がありました。

こちらが、新港ふ頭から山下ふ頭を経て本牧ふ頭を連絡する臨港幹線道路の計画図です。山下ふ頭から本牧ふ頭間は、国直轄事業として既に事業化されており、山下ふ頭の再開発に併せた整備を国に対して要望しているところです。

新港ふ頭から山下ふ頭間は、都心臨海部の一体化と埠頭間のアクセス強化のため、国直轄事業による整備を要望しております。

補足説明は以上となります。

【事務局】

続きまして、ファクトシート【国内外開発事例編】について、ご説明させていただきます。前面のスクリーンに写し出す資料でご説明させていただきますが、同じ物をお手元にも資料4として配付しております。

まず、国内の事例として、東京湾沿岸部における開発事例を整理いたしました。高度経済成長期では、重化学工業地帯としての工業地化が進みました。安定成長期では、従来の機能からの質的転換が図られました。低成長期では、次の時代につながる産業・ビジネスの創出、国際交流の場を設けた地域が多くなっています。

各地区の都市的開発の内容は、下段に示したとおりです。各地区の都市的開発により配置された、主な導入機能・施設をプロットした図面をお示ししています。主な導入機能・施設については、本市がこれまでに2回行った事業者提案募集にありました中心施設をプロットしてございます。企業・大学イノベーション施設のうち、施設が複数存在する地区を青色でプロット、スポーツ・コンサート等エンターテイメント施設のうち、10,000席以上の施設をオレンジ色でプロット、国際展示場等の施設のうち、展示場面積10,000㎡以上の施設を黄色でプロット、テーマパークのうち、大規模な施設を黒色でプロット、緑は地区で一番大きい施設を緑色でプロット、おおむね、どの地区にも各機能・施設が配置されていることが見て取れます。また、最近の主な大規模開発を赤でプロットしています。こちらは後ほど紹介いたします。

次からは、地区ごとに事例をご紹介します。まずは、横浜都心臨海部における開発の構想や計画を改めてご紹介いたします。まずは、2010年に提言を受けました都心臨海部・インナーハーバー整備構想です。次なる50年を見据えた都市づくりの方向性として、横浜市民と世界から集まる多彩な人が幸福と豊かさを実感できる都市を目指して、①人間中心の都市、②持続可能な環境、③人材・知財を活かす社会、④文化芸術創造都市の更なる展開、⑤市民社会の実現を基本理念とし、インナーハーバー地区内各エリアの用途変換等に合わせ、現在の都心部から段階的に成長し、徐々にリング状の都市構造を形成していくということが、横浜市インナーハーバー検討委員会により提言されてございます。

続きまして、都心臨海部・インナーハーバー整備構想が提言されたのち、2015年には本市が横浜市都心臨海部再生マスタープランを策定いたしました。世界が注目し、横浜が目

的地となる新しい都心、都心臨海部を中心とした新しい横浜のライフの実現を目指して先進、交流、創造、感動、快適、活躍を将来像といたしまして、それぞれの地区の魅力をつなぎ合わせる「みなと交流軸」の形成と、「地区の結節点」における連携強化を重点的に進め、都心臨海部5地区の一体的なまちづくりによりまして、港と共に発展する横浜ならではの都心を形成するというございます。

続きまして、臨海部の開発ではございませんが、横浜市内で行われております大規模開発であり、委員からも連携したまちづくりが必要であるとのご意見を頂いております、旧上瀬谷通信施設地区についてご紹介いたします。旧上瀬谷通信施設地区土地区画整理事業では、テーマパークを核とした複合的な集客施設、農体験、ICTなどを活用した「収益性の高い農業」の展開など新たな都市農業モデルとなる拠点、新技術を活用した効率的な国内物流拠点、国際園芸博覧会のレガシーを継承する公園や災害時における広域的な防災拠点を整備する予定です。旧上瀬谷通信施設地区土地区画整理事業の一部の区域で、2027年3月から約半年間、GREEN×EXPO 2027が開催されます。

続きまして、川崎臨海部（扇島地区）の開発です。「カーボンニュートラルを先導」、「首都圏の強靱化を実現」、「新たな価値や革新的技術を創造」、「未来を体験できるフィールドの創出」、「常に進化するスーパーシティを形成」等を土地利用の方向性としています。

こちらは、築地地区の開発となります。「大規模集客・交流機能の導入や屋外広場などによる新しい文化を創出する舞台」、「ゼロエミッションの実現」、「デジタルと先端技術の活用」等に取り組むこととしています。

こちらは、品川駅北周辺地区の開発です。文化・ビジネスの創造に向けた、「育成・交流・発信機能」、「外国人のニーズにも対応した」、「多様な居住滞在機能」、「地域の防災対応力強化とエネルギーネットワーク構築」などを方針としています。以上が国内の開発事例となります。

続きまして、国外の開発事例となります。国外事例については、委員会での議論を参考にしながら市民意見募集や事業者提案で示された主な機能・施設・視点が含まれたウォーターフロント等での開発を選定しています。

まず、本日紹介する事例を一覧でお示しします。複合的に機能を導入した開発や一つの機能に重点を置いて開発した事例をご紹介します。

ここからは各事例の開発テーマや特徴などについて、簡単にご紹介いたします。各事例をスライド2枚で構成し、1枚目は代表的な写真と開発の経緯、特徴、経済効果など、2枚目は主な施設写真としています。

ハーフェンシティでは、高等教育・研究機関の設立、かつての倉庫を基盤として建てられた文化施設が開館するなど、学術研究施設や文化・芸術施設の集積が進んでいます。

ミッションベイでは、カリフォルニア大学サンフランシスコ校において、保育園・幼稚園・小学校との連携により、幼少期から質の高い教育やキャリア体験の機会が提供されるなど、子育て・教育にも注力していることが特徴となっております。

スタンレーパークでは、従来は、単なる市民の自然系リゾート地としての役割を果たしていましたが、娯楽機能の整備がなされ、近年は、ファミリー層や観光客向けに、自然系アクティビティを楽しむ機会が提供されていることが特徴となっております。

マルセイユ旧港地区では、倉庫を劇場に転用するなど、既存施設を活用し、地域の歴史を尊重するとともに、周辺の景観と調和した開発が特徴となっています。

ボルチモアでは、歴史的な船舶の展示や国立水族館、体験型科学博物館などの建設が進められ、現在は観光地としての地位を築いています。

ダブリン・ドックランズでは、周辺の河川や山脈、市内中心部のパノラマの景色を眺められるなど、景観に配慮した施設構成が特徴となっています。

バルセロナ旧港地区では、水族館や博物館等の文化施設に加え、ケーブルカーや遊覧船、ヘリコプターなど、景色を楽しむことができる交通機関が整備されていることが特徴です。

LA ウォーターフロントでは、クルーズ船が寄港することに加え、商業施設や公園、レクリエーション施設が整備され、観光地としての地位も築いています。

釜山北港では、IT やメディアコンテンツ産業の集積を目指した業務施設、水族館等の文化施設やアミューズメント施設、公園の整備など、複合的なまちづくりが行われています。なお釜山北港は事業中のため、主な施設の写真はご紹介できません。

マンハッタンでは、堤防の役割を果たす都市公園や防潮壁を兼ね備えた親水空間等で囲み、洪水や海水面の上昇から守るなど、防災機能の向上を図ることが特徴となっています。

最後に、市民意見や国内外事例を基に、機能や視点を取りまとめたスライドをお示ししています。これまで開発事例をご説明して参りましたが、山下ふ頭にふさわしい事例の紹介という趣旨ではなく、あくまで意見交換の際にご参考にしていただければという風に思います。また、開発事例につきまして、委員の皆様方の知見から補足等いただければ幸いです。

ファクトシート【国内外開発事例編】の説明は以上となります。

【平尾委員長】

ファクトシート【国内外開発事例編】のご説明ありがとうございます。それでは、ただいまのご説明につきまして、皆様方からご質問、ご意見があればお伺いしたいと思いますがいかがでしょうか。

今村委員いかがですか。

【今村委員】

今のは開発の事例ですが、例えば成功したところはこのようなところをうまく変えたとか、あるいは色々な地域のルールだとか、ソフト面でのものをもうちよつと絞っていただいて、ハードだけじゃなくて、うまくいったところの例を、何が具体的にどうなったのか、国を含めて、やっていただくと非常にいいかなというふうに思っております。

【平尾委員長】

はい、貴重なコメントありがとうございます。

【事務局】

ありがとうございます。ちょっとその辺を整理して、また次回お示ししたいと思いません。

【平尾委員長】

村木委員いかがでしょうか、ご感想なり、コメントなり。

【村木委員】

ありがとうございます。今村委員がおっしゃったのと同じようなことを私も思いました。特に、国内外のウォーターフロントの開発事例につきましては、一般的に言われていることだけではなくて、その効果としてどのようなことがあったのかというのを数字で、例えば経済効果とか雇用効果というのが書かれているものもあります。それを目指して開発をしているものもありますが、それによってもたらされた別の効果みたいなものもあるのだと思います。なのでそのようなことを深掘りしないと、参考になるかどうかというのは分からない気がしました。

また、開発は一度すると長い時間それを利用していくことになりますので、今の市民の方々が望むものと将来の横浜市民のために作っていくもの、それと施設の用途転換とか時代の求めるものにどうやって対応していくのか、そのようなことも含めてこういった海外事例等がどんなことをしているのかということも学ばれるといいのではないのかなと思います。以上です。

【平尾委員長】

貴重なコメントありがとうございました。是非事務局の方でまたその辺を。

【事務局】

調べられる範囲で、まずはしっかり事実を確認したいと思います。ありがとうございました。

【平尾委員長】

時間がございますので、次に議事（3）に入ります。地域関係団体委員の高橋委員から意見書を提出いただいておりますので、10分ほどでご趣旨をご説明いただきたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

【高橋委員】

はい、ただいまご紹介いただきました高橋でございます。関内・関外地区活性化協議会の会長をやっておりまして、今日こういう場で意見を述べさせていただくということで機会をいただきました、ありがとうございます。

お手元の資料5に出ておりますが、関内・関外地区活性化協議会、まずほとんどの方が知らないと思います。今から12年前に設立されてこの関内・関外地区の活性化を持続可能

なものにするため、地域全体の活性化に効果のある重点的な取組について、地域が一体となって議論、情報共有し、様々な主体が実施する具体的事業と適切かつ効果的に関わりを持って支援することで、地域の発展に寄与する、簡単に言うと、地域をいかに発展させていくかを主眼として事業活動を行っている団体でございます。本日意見書にあたりまして、4つの観点からお話をさせていただければと思っています。

まず1つが市民の生活向上、もう1つが横浜経済、そして3つ目が防災、4つ目がこの検討委員会もしくはこれから検討委員会が終わったとしても、それ以降の運営、そういったものについて意見をさせていただければというふうに思います。

まず、1番目の市民の生活向上に貢献できる場所であることということで別紙1を添付しております。先ほどファクトシートということで出ておりますけれど、これの3ページ目をちょっと開けていただければと思います。先ほどちょっと出ておりましたが、横浜市の人口減少社会の到来ということで他の地区に、全国平均に比べますと緩やかなのですけども、いずれにしてもトレンドとしてはもう減少方向に向かっているということです。

次のページを見ていただきますと、ここに一番端的なものが出ておまして、この現象がどういうことをもたらすかということで、経済活力の低下、そして個人市民税の減少、非常に横浜市は市民税に依存しておりますので、あと社会保障費は逆に増加をするということになります。この結果、12ページを見ていただきたいのですが、このように赤字体質というものが継続されていくということになります。これをどういう風に今後対応していくかということは、非常に市民の生活が、例えば市民税が上がるとか、色々な例えばインフラ面で、例えばバスや地下鉄そういったものに、例えば減便だとかそういった形で現れるとか、今まで我々が当たり前のように受けていたそのサービスが受けられなくなったりとか、色々なことが多分弊害として予想されてくると思います。

そういう中でもう一度意見書の1ページに戻っていただきまして、生産年齢人口の減少や、少子高齢化の進展を見据え、横浜市の税収を確保し、市民の福祉や生活の向上に貢献できるよう、再開発事業には税収を生み出す場所、この赤字の部分少しでも補えるような場所としての観点が不可欠であると考えています。また段階的な開発が進むなかでその一部を地域の例えば、賑わい創出、課題解決そういったものにつながる社会実証の場として活用させてもらえればということが第1点目になります。

第2点目に参ります。これは別紙2を開けていただければと思います。ここにも書かせてもらいましたが、山下ふ頭の再開発は今後の横浜経済の要であり、横浜都心臨海部は元より、横浜市全体にとっても横浜の礎を作った横浜市六大事業、先ほどお話が出ておりましたが、それに匹敵するレベルの事業と、今後10年後20年後30年後、もっと言うと50年後、こういった時に、「やっていてよかったね」、そういったような事業になることが一番好ましいと。また、観光の観点も含めまして横浜経済の牽引役となる再開発事業を検討する必要があるというふうに考えています。特にJNTOの訪日外客数の調査、これは単月で見ると初めて300万人を超えています。あと日本は海外から見ると一番行きたい国らしいので、非常に外国からの注目も高いということで、この埠頭の再開発事業はこうした外国からの観光需要をうまく捉えて大規模集客施設、ホテル機能の導入など、旅の目的地、デスティネーションになることによって消費や雇用創出など、横浜の地域経済活性化の起

爆剤になってもらいたいなというふうに思っています。特に、この日本を代表する都市として、発展し続ける横浜にとっては、横浜都心臨海部に位置する山下ふ頭は世界との玄関口になるべき場所であり、横浜の成長を牽引し市民のより豊かな生活に繋がっていく場所となるべきだと。また、大規模開発によって生まれる新たな市場の恩恵を山下ふ頭内に留めず、街へ回遊させ、地域経済へ波及させることが重要だと。先ほど世界の例が出ておりましたが、地域内だけでの経済効果なのか、その周辺を含めた全体的な経済効果が引き上がっているのかというのは、検証すべきことなのかなというふうに思っています。本当にこの六大事業、1965年、今から60年前に飛鳥田、当時の市長が提唱されて市民に提言をされたことですが、これがあるのとないのとでは今のやっば横浜の発展度合って大きく変わっていると思うのです。ですからそういった意味では、この47haの山下ふ頭をどういう風に活用していくかということは本当に横浜市生命線になるのかなというふうに思っています。

3点目、防災拠点ということで、私ちょうどこの中区の消防団の団長をやっておりまして、この防火・防災こういったものには一般の方よりも非常に深く携わっております。特に別紙3を見ていただきたいのですが、市民や来街者の防災拠点となる場所であること、ということで山下ふ頭に隣接する横浜都心臨海部には多くの市民が暮らし、来街者が訪れるエリアであることから、山下ふ頭の開発においても市民及び来街者の安全・安心をより強固なものにするための防災機能の拡充の観点が必要であるということです。具体的には、横浜市全体の災害対応力の向上を目的とした消防団員の訓練機能。中区だけでも500名近い消防団員がおります。そういった場所の確保。あと開発が住む横浜都心臨海部に対応した水上消防署機能の拡充。あと皆さん見られたことないと思いますが、老朽化した中消防署機能の強化などを提案したいというふうに思っております。特にこの中区というのは、人気観光地や商業地が多々あり、住民だけでなく観光客、通勤客、昼夜間人口比率が168%ということでお分かりいただけると思うのですが、特に中区外から観光客が首都圏を中心に全国から訪れます。ということで、また外国籍も多いということで、多種多様な方々がやってくると。一方で、この首都圏直下型地震、こういったものは2050年までの発生確率は70%を超えているということで、首都圏直下が起きれば、山下公園自体がそういったことによってできた公園ですので、そういったことが起きた時にどういうことが起きるかという、この対応は喫緊のやっばり課題だと思っております。

このように「滞在人口」、「土地勘がない人が占める比率」、「多様な国籍」など特徴がある中区で災害が起きた場合、残念ながら現在の中消防署では主となる管轄消防署としてのキャパシティが全く足りない。それだけではなく老朽化による建物被害の懸念があり、災害対策の根幹として消防署の機能に問題が出てこざるを得ないというような状態です。隣の区の南区、立派な消防署があつて中区はもうボロボロというような状態で、これは資料としてつけさせていただきました。次のページに、阪神大震災が起きた時に消防署が壊滅的な影響を受けて、消火活動ができないということになったのですが、現在の神戸市の中央消防署、こういったものは立派な建物が立っていつでもこういったものに少しでも、全てうまくいくとは思いませんけれども、対応できるような整備がこの山下ふ頭では是非できるのではないかなというふうに思っております。

そして4番目、検討委員会の運営という部分について、資料の別紙4を見ていただければと思います。検討委員会を有意義な場とするために横浜市が再開発に関する考え方や議論のポイントを示し、これに対して学識経験者や地元関係者は元より、県や国など関係者全員が建設的な意見交換を行える運営をお願いしたいというふうに思っております。検討にあたっては港湾局だけでなく、先ほど副市長からもお話がありましたけれども、関係部局の関与や委員会への出席が必要と考えております。また、観光立国ということで特区なんていう話になれば内閣府も関係してまいりますし、国や県の関与も不可欠ということで新たな組織体制案ということでここに出させてもらいましたが、横浜市は関係部局、そのリーダー、そして管轄各局の統括、副市長ということになりますけれども、こういった方々が参画いただくことで検討が深まり、実行性も高まっていくというふうに考えています。地域関係団体というどうしても部分最適の方に皆さん目がいてしまうと思うのですが、そうではなくてこの地域団体もその地域全体が繁栄するという全体最適にもかなり協力的に動くと思いますので、この地域関係団体、あと学識経験者の中には、経済や経営を主観とする経済学者にも是非参画をいただきたいと。あと経済人、現在の学識委員は学術的な方が多く、そこに現在日本経済の最前線でリーダーとなっているような経済人を招くことでより多角的で大胆な議論、実行性を期待できると考えます。あと、先ほど言った国と県、こういったところも参加をいただきたいというふうに思っております。全体を色々、10分ということで早口で話をさせていただきましたが、こういった大規模プロジェクトというのは全体最適と部分最適のバランスだと思うのですね。ただ一番大事なことは部分最適を優先するあまりに全体最適を損なってはいけない。そのように考えています。意見書を参考に、横浜市がきちとしたイニシアチブを持って、利権優先ではなく横浜市民そして横浜経済の発展のために長期的視野に立ち、山下ふ頭という場所を是非とも有効に活用してもらおうこと。これは横浜市民が多分一番望んでいることだと思いますので、是非ともよろしくお願ひしたいと思ひます。以上、10分です。

【平尾委員長】

高橋委員、ありがとうございました。具体的な山下ふ頭のあり方から、さらに防災の観点、さらに今後のこの検討委員会のあり方について広範なご意見をいただきましてありがとうございました。時間の関係がありますので、関連の質疑は後ほどに回させていただきますと思いますが、ありがとうございました。

次に議事（4）の学識委員の皆さんからのプレゼンテーションをお願いいたします。

始めにWEBからのプレゼンテーションになりますが、幸田委員からプレゼンテーションをお願いいたします。よろしくお願ひいたします。

【幸田委員】

はい、ありがとうございます。画面共有をして進めさせていただきたいと思ひます。少しお待ちください。はい、神奈川大学の幸田でございます。今日はこういう機会を与えていただきましてありがとうございます。

時間も10分ということですので、3点に絞ってお話をしたいと思います。再開発で重視すべき要素として、1つは港湾機能の活用と強化、それから2番目は先程来話が出ていますけれども港湾と都市の共生。市民の憩いの場の確保。3番目が事業計画の策定等の決定手続きのあり方でございます。

最初の港湾機能の活用と強化については、臨港地区、保税地域になっているということで、港湾機能をどう山下ふ頭で活用するのかということとは是非検討すべきではないかということは以前も申し上げさせていただきました。これは横浜市の港湾局の図面でございますが、もう少し広くしますと東京湾と横浜湾というものはこういう形で繋がっている。そこをどう連携するのか、結節点ということをよく意識する必要があるのではないかと。そして山下ふ頭、矢印つけていますけれども、この海側の方にはベイブリッジがあるわけですが、横浜市の内陸部との結節点という点についても十分意識をする必要があるのではないかとこのように思っております。

2番目が港湾と都市との共生ということでございます。これは1976年の横浜市の港湾局長の発言を少し抜粋させていただいておりますけれども、「市民と港の交流が重要である」と。また、「積極的に市民に解放していくことは1つの大きな政策である」ということを発言されておられます。下の方の青山学院大学の北見教授は、前ちょっとハンブルクの話をご私申し上げましたけれども、「港の活動は市民の生活都市の発展と直結をしていた。市民との関係が一体化し、都市と港を支える基盤はブルガーとしての団体だった」ということが書かれています。具体的にハンブルクのハーフェンシティ、ここでは実際のパブリックスペースが28haということで全体の25.8%の割合も占めている。そしてこれ後の話にもつながりますけれども、市民の意見を聞きながら時間をかけて進めている。それからロサンゼルス港でございます。ポートマスタープランの3つの柱の中の1つとして「港と隣接する地域との間の土地利用を調和させる」それから「ウォーターフロントのアクセス」、アクセスの話は先ほども出ていましたけれども、強化することと、「地域社会との共生」ということで、アメリカのロサンゼルス港では様々な団体があって、市民の意見を聞きながら時間をかけて行っているということでございます。

そこで、3点目、事業計画の策定の決定手続きをどういうふうに進めるべきかということについて少し時間をかけて説明させていただきます。この山下ふ頭についてIR誘致で大変問題があったということでございます。この反省の上に立って検討すべきであると。1つは市民への発信手法。簡易な議事録しか作らなかった。有識者委員会も大部分が非公開。そして市民への情報提供はかなり偏っていたという問題。2番目として見えづらい政策決定過程。政策方針の決定にかかる情報の発信というのが非常に不十分だった。また、数値あるいは最新の分析も非公表で、第三者は客観的な分析を行えなかった。情報公開請求は黒塗りが多数だった。こういう問題があったということでございます。こういった問題の反省の上に立って、今回の山下ふ頭の再開発計画は検討すべきだと考えております。この下になりますけれども、事業計画の策定手続きは市民参加の手続きとすべきである。事業計画はどのようなコンセプトか、何が変わるのかなどの情報をしっかりと市民に伝える。事業者の選定に当たっては、先ほど委員長の「市民による市民のための市民の山下ふ頭である」というご発言があったところですが、市民がどういうことを考え、どう

いうことを望んでいるのかというコンセプトを十分頭に入れた事業者しか応募させるべきではないということでございます。現在、このスライドですけれども、横浜市の港湾局のリーフレットはこの委員会を設置する前に「有識者委員会設置予定・事業計画案検討」となっていましたけれども、この委員会設置されて、これは横浜市の港湾局にも確認しておりますけれども、横浜市の港湾局の今年の2月の最新の資料では「まちづくりの方向性や導入機能等を検討する」と変わったところでございます。つまり、事業計画案の検討ではないということですね。そして今年の2月の横浜市の資料によりますと、有識者委員会の後は事業計画案を作成し、パブコメあるいは意見交換をやって事業計画を策定するということになってございまして、事業計画案の検討委員会を設置するとはなっていないわけがあります。しかし、これは極めて不適切であると考えています。事業計画の検討の委員会を設置して、市民も入れて検討すべきだというのが今日の私が是非主張したいことでございます。その1つの仕組みを提案させていただきます。

事業計画の検討委員会には市民、学識経験者、横浜市の職員も入っていただいて検討するということが1つですね。それからこの委員会に入らない市民の意見あるいは有識者、地域関係団体等もその委員会に意見を出せるということ。それと先ほど申し上げましたように、事業に応募する事業者は検討委員会を毎回傍聴して、その委員会・市民の声をきちんと自分のものとして理解する。この傍聴を毎回しない事業者は事業に応募できないというふうにすべきだというのが全体の概要でございます。事業計画案に盛り込むべき事項というのは項目をちょっと上げてみましたけれども、この説明は省略させていただきます。そして公聴会を市長によって開催を義務付けるべきである。それから市民からも開催要求を出せる。それから先ほど申し上げたように外部から色々委員会に意見を出せるようにすべきだということでございます。いわゆる説明会と公聴会の違いというのは皆さんご承知のとおりでございますけれども、こういったいろいろな意見聴取の手段がパブコメ含めてあるわけですけれども、公聴会を是非やるべきだろう。しかも10人以上の連署による開催要求によって公聴会を行うというふうにすべきだと考えております。そして先ほど言いました事業計画の検討委員会の過半数は市民の代表を入れるべきであるということでございます。

じゃあ多くの市民が手を上げた場合にどうやって参加する市民を選ぶのだということになるかと思えます。一般的には市民委員の選定方法というのは「互選をする」、それから「全員を委員にする」などありますけれども、全員を委員にするということは多くの人が手を上げた場合に難しいので、互選によって参加する市民委員を決めるべきだと考えます。皆さんの中には多くの市民がいた時にどうやって互選するのだと疑問を持つ方がいらっしゃるかもしれませんが、これは可能であると。デンマークなどでは、市役所が大きな体育館を用意してそこに市民が集まって、例えば環境系の団体はそこで集まって誰を代表にするかということを議論して最終的に互選で選ぶということは可能だということでございます。それから実質的な合意形成を確保するための手続きについては先ほど申し上げたようにこういったことを確保すべきだということでございます。そしてこの事業計画検討委員会では原則全員一致で決める。しかし全員が一致しない場合もありますので出席委員の過半数の賛成と出席の市民委員の3分の2以上の賛成で決めるべきだという要件を

考えております。合意形成の経過は地方自治法上、この市民の委員会の結果に市が拘束されるということはできませんので、あくまで市長は合意の内容を尊重するという形になるかと思えます。それから「市民の権利」・「情報の保存と開示」についてはここに書いてあるようなことを確保するべきだということでございます。なお、議会との関係については、地方自治体は二元代表制でございますので、議会と独立して当然判断ができるということで。先ほどの図では委員会に対して議会が意見を言えるというのは事前に情報提供、議会にも提供をして、できるだけ反映し、その後の議会審議にも円滑に進めることができるようにするべきじゃないかということでございます。

これは私が5、6年前にチューリッヒを訪問しまして、都市計画ですね、市民の声を本当にしっかり聞いてものすごい分厚い市民の意見に対する応答の冊子ができていましたけれども、都市計画部長のお話聞いたのですが。これは市役所の地下ホールがこうなっていて、奥の方で市民が集まってワークショップで議論する。模型がありまして、ここは模型がパカパカと外れまして、「例えばA案だったらこうなるよ」と「B案だったらこうなるよ」って見ながらみんなで議論するということでございます。

ということで、山下ふ頭の開発計画、カジノの時の非常に問題があったものの反省の上に立って、しっかりと事業計画検討委員会を設けて検討すべきだということを提案したいと思えます。山下ふ頭の再開発を成功させる上ではやはり今まで色々な観点からのご意見が市民あるいは有識者から出ていますけれども、しっかりとそのコンセプト、そして市民による市民のためのというお話ございましたけれども、そういった検討が実質的に実行的に確保されるようにすべきだと考えているということでございます。以上で私のプレゼンを終わらせていただきます。

【平尾委員長】

はい、非常に具体的な提案、ありがとうございました。時間的なことがございますので、討議はまた後にさせていただきます、次のプレゼンテーションに移りたいと思えます。

続いて、内田委員からのプレゼンテーションお願いできますでしょうか。

【内田委員】

わかりました。よろしくお願ひいたします。

私は経済ジャーナリストという観点、あと2019年に横浜イノベーションという本を執筆いたしました、あらゆる横浜の経済人の方であるとか、職員の方にインタビューをして、取材をして、理解をしたことというものがまずベースとして私の知識の中としてあります。さらに、今皆さんお手元にある港湾局さんから頂いている市民の方たちのアンケート、ここまで審議をしてきた学識者のメンバーの方たちのプレゼンテーション、そういうものから学んだこと、そういうことと、あとは私の本業であるところからの経済の原理原則というものを考えて、私の考えをまとめてみました。

資料作成におきましては、今流行りの生成AIを活用してみました。そこで使っている画像は、生成AIが出してきたイメージでして、完成予想図ではございませんので、そこは

誤解のないようにいただければという風に思います。こんなイメージをAIが、こんな感じっていう感じを出していただいたものです。そのように楽しんでみていただければと思います。

私は、少し具体的なイメージを持っていただくということをあえてプレゼンテーションしたいなというふうに思っております。では始めていきたくと思いますけど、横浜山下ふ頭再開発、どうあるべきかというところで整理をしてみました。

まずはここですね。賑いを創出し、人々に喜びや楽しみ、感動や癒しを提供する場であること、ということですね。あとは、新しい街を創造すると、人々のウェルビーイングに貢献する場所であるっていうところ、まず1つあると思っております。

次、大事なところ、横浜市地元経済に経済波及効果を大いにもたらすというところが大事ですよ。直接再開発に参加する企業や団体、または山下エリアだけではなく横浜全体、もっと言うと日本経済にプラスになる、そういった影響をもたらすという優れた場所として開発されるべきだろうというふうに思っております。

そして行政や税金の依存や負担がない。ここポイントだと思うのです。もう最初から、税金を投入しなければ成立しないというようなプランは、未来の次世代に負担を残すということにもなりますので、民間がメインによる、自立かつ永続的な運営というものが求められるであろうというふうに思っております。

そして港、水際という素晴らしい立地なわけで、ここの地の利を十分に活かすということが大切かなというふうに思います。やはり水際ってというのは、非日常空間なのですよ。そういうようなことを、どんなふうに生かすことによって、山下ふ頭の価値というものをさらに上げられるかというところに工夫があったらいいな、というふうに思っております。

そして他のどこにもないもの、唯一無二のもの。どこかの真似、なんかこれはどっかで見たことがあるなというようなものだと、やはりちょっと残念な感じになってしまいますよね。やはりここはこだわって、唯一無二、オリジナルであること、そこにものすごい価値が生まれるのだろうというふうに思っております。

そして競争力が持てる、そういうことはつまり経済波及効果も大きくなるというふうに、人々の注目を集めるサプライズを提供することで経済波及効果も生まれるというふうに思っております。

例えば、唯一無二ということであるならば、グローバルの視点で見れば、日本ならではの文化を体験できる。アンケートの中にもありました、こういうようなものは非常に、日本文化ってというのは独自性があります。世界的に見ても、日本文化に対する好感度というのは非常に高い。日本ファンというのがたくさんいるわけです。こういうことは我々よりもむしろ外国人の方の方が、日本の良さを知っているというような傾向が最近感じられるわけで、それを我々が再評価して、日本の文化の価値というものを認めていくと、形にしていくというようなことが求められるのかなということです。

そういうようなことをすることで、インバウンド、これからまた右肩上がりにコロナからV回復を今見せていて、今年度にはまたインバウンド、最高人数を更新していくであろうというふうに言われている。インバウンドってというのはやはり、これからの観光の強い

味方であり、しっかりとお金を落としていただくっていうところが、都市競争の中で勝っていくというふうに思われます。

その中で、じゃあ日本に来るインバウンドが、目的地が横浜なのだと、山下ふ頭なのだというふうにピンポイントで来日の目的としてくれるっていうこと、今まで残念ながらところなのですよ。そういうものを、横浜が逆転していくことをやってみたいなというふうに思います。グローバルの視点というところでさらに付け加えると、やはり世界基準、老若男女ダイバーシティ、すべてを受け入れる寛容性というものが必要だなというふうに思っております。

そして当然環境に配慮したものです。やっぱり環境に負荷を与えるものというのは、これから新しい設備ではもう全く認められませんし、評価が得られませんので、そういったカーボンニュートラルに貢献するというのは、当然の常識というふうになってくるであろうというふうに思っております。

あとは、やはり単価が今、観光客の単価が低いよ、と。日帰りの観光客、安い観光客というものにやっぱりどうしてもなってしまう。横浜やここで、世界の超富裕層にも支持される完成度、そういうものをやっぱりちょっと挑戦していかなければいけないのではないかと、挑戦する価値があるのではないかとというふうに思っております。

そして、横浜ならではというところ、ここ大事なのですけれど、横浜のパーパスって何だっけっていうところですね。横浜は文明開化の窓口だったわけです。日本の文明開化、開港場である横浜から始まったという、横浜っていうのはそういうどこにもない価値を持っているのです。歴史上、開港場であること、それは新種の気質、世界中から新しいものがどんどん入ってきたという、そういう入り口であったということ。世界中の人たちが、ここにある意味ビジネスチャンス、一攫千金を求めて集まってきたっていう、ものすごいワクワクする、大変皆さんが期待をする賑い、そういうものがある場所だったわけですね。そこが横浜の原点。間違いなくそういうところだったわけですね。そういうようなものを、じゃ今の時代に変化させるとどういう形になるのだろうかというところ。そういうものをもう全て含めて、横浜市民がここは素晴らしいと、プライド・誇りに思えるものを作るっていうことですよ。世間話の中で「ねえねえ、最近横浜にすごいのができたんだよ。1回来てみてね」っていうようなことを、日本中の、世界中の友人知人に自慢できるようなもの。そういうことをこうやっていくっていうのが大事ななというふうに思っています。

成功、どんなふうなことが今の要件、色々総花的になりましたけれど、そういうものを全部満たしていきたいよねという、贅沢なというか、必須なのだろうと思うのですよね。そして見てみると、日本のテーマパーク。テーマパークに限らないのですけれども、今提案しているものは。成功している事例っていうのは圧倒的にディズニーランドなのです。ディズニーランドの成功っていうのはとてもすごい。世界のそういったテーマパークの中でも、第3位なのです、その成功ぶりっていうのが。なんでなんだろうというところを、これを研究する意義はあると思っております。

日本で業界トップ、オリエンタルランド。業績ですね。2024年3月期っていうのは売上高が6,184億。営業利益1,654億円。来園者数2,750万人、コロナの前は3,255万人でし

た。だからこれはもう時間の問題で超えていくと。1人当たりの売上高が16,644円。で、払っている法人税が457億円ということなのですね。で、従業員数が24,400人なのですね。ちょっとここに書いていませんけれども。その従業員、雇用をしていく24,400人。その2割が横浜市民になっているってということなのですね。そういう効果をもたらしている。

じゃあなんで、ディズニーランドは成功しているのか、ということなのですね。皆さん、東京ディズニーランドに行ったことがある方は感じていると思います。お子さんやお孫さんと一緒に行ったらしゃると思いますし、自分自身も行ったと。これ行くたびに新しい発見があるのですね。だからこそ、もう1度行こう、また行こうというリピーター率の高さがある。これウォルト・ディズニーの言葉です。「テーマパークは永遠に完成しない」。もう最初から永遠に新しいものを投入していくのだということが、スタートの時点から決まっているわけです。覚悟が決まっているのですね。

今のオリエンタルランドの社長、吉田社長の言葉ですね。最新の言葉。「創業以来当社は一貫して世代を超えて共感できる価値を提供し続け、心の安らぎや活力を生み出してまいりました。私たちの挑戦に限界や完成形はありません」。これディズニーと合っていますね。で「これからも世界中でここ横浜だけでしか体験できない、そういうことを、夢の世界を創出していく」と。「1つでも多くの笑顔を生み出していけるように挑戦し続けていく」ってということで、もうずっと終わらない、変わり続けていくのだってという覚悟が、この東京ディズニーランドの成功の要なのですね。

ですので、じゃあ成功の要点、顧客の世代交代が起こってくるわけですよね。どんどん時代が変わって、お客さんのニーズが変わっていく。それに、変化に合わせてコンテンツを変え続けていくのだということ。ディズニーランドで言うとショー、パレード、アトラクション、リニューアルし続けているのですね。毎年500億から1,000億の設備投資をし続けている。東京ディズニーシーの新しいテーマポート「ファンタジースプリングス」って、あのアナ雪なんかのコンテンツが入っているのですけれども、今回ここには3,200億円投入していると。

この投資をし続ける覚悟、挑戦し続ける。もうトライアンドエラーで失敗を恐れない、狙いが外れたら変えていけばいいのだと。そういうことでハードだけではないソフトも最新のものを投入し続けていくっていう、そういうことをやり続けているってということなのですね。飽きられてない、老朽化してない、時代遅れにもなっていない。もう30年、40年ですね。企業価値、時価総額はどんどん上がっている。これだけ投資をし続けているにも関わらず、どんどん成長しているっていう。こういうものにやっぱりヒントがあるのだろうなというふうに思っているわけです。

そして、じゃあ横浜の観光の課題っていうところを見ていきたいと思うのですね。横浜の観光、これは令和6年6月にぎわいスポーツ文化局の資料をいただきました。2023年の観光収入、お客さんですね。3,600万人年間に来ました。観光の消費額3,667億円と。で、日帰り客数ですね。これが3,220万ですね。平均の消費額が6,480円。観光消費額2,087億円ですね。

一方宿泊客の方ですね。これが380万人です。桁が違うのですね。使っているお金が41,558円。平均ということで。観光の消費額が1,580億円ってということなのです。これが今のファクトです。

じゃあこれからどうするのですか、横浜の観光の中期目標は何ですか、ということ掲げられている金額を見ると2030年に5,000億円を目標にしているということなのです。これプラス1400億円が必要だっていうことなのですけど、上の数字を見ていただければ分かるのですけれど、あと1,400億円増やしていくと、日帰り観光客で、となるとです。今現在は観光客の9割が日帰りなのです。このままさらに日帰り観光客だけが増えていくと、もう完全にオーバーツーリズムなっちゃうわけですよ。単価が落ちるのがものすごく安い。でも人だけがもううじゃうじゃいて身動きが取れないね。ああもうあんな混んでいるところには行きたくないね、というふうになっていく可能性がある。です。で、やはり客単価を上げていく、そして宿泊需要も上げていく。ここに注力するというのがこの5,000億というものを達成するという、こうリアリティになっていくということなのです。

じゃそれだけお金を落としてくれる人は誰だということ、インバウンドに注目していくということですね。過去最高の数字3,188万人で、先ほど言ったように今もう半期が終わって、1,500万人近いわけですね。このペースだと過去最高を更新する勢いがありますよということ。で訪日外国人がお金を使っている、どれぐらいお金使ってくれているのですか、ということ。5兆3,065億円ということで、宿泊費が一番大きい。買い物をしてくださる。飲食も楽しみだというようなそんな感じで。娯楽サービスっていうのは、5.1%ってということなのですけども。ちょっとその部分が、まだまだお金を落としていただけるという器がないのだろうということになっています。

じゃあ誰が、どこの国の方が、どこの地域の方がというところで見ると、台湾・中国・韓国・米国が伸びていますね。で、香港ということで、アジア一帯のところの、色々緊張感があるような状況ですけども、日本に来るともうみんなが楽しんでくれるという、そういう状況になっているわけです。一般客の1人当たりの旅行の支出が21万円ということで。こうしたもののデータを、ファクトを見ていくと、じゃあこれからの横浜の観光として、経済効果を生んでいくその原動力になっていく鍵というのは何かと言うと、やはり宿泊客を伸ばしていくこと、そしてインバウンド、世界中からのインバウンドを取り込める街になっていくことっていうのが必須かなというふうに見て取れるわけです。

じゃあ、その先ほど言った日本の文化をどう楽しんでいただくかっていうところを最初に紹介していきました。かつて日本は家電製品に、自動車は今もそこは力ありますけれども、それがメイドインジャパンの象徴でした。プロダクトですよ。

でも今は日本のポップカルチャー、それが海外の若い世代中心に、日本の魅力を示す代名詞になっているのです。私なんか海外の取材に行って日本人だというと、日本語で話しかけてくれる外国人の方がたくさんいるのです。で「日本語上手ですね」というふうに言うと、「私は小さい頃から日本の漫画・日本のアニメを見て育ったのですよ。いつか行きたいのです」というような、そういった会話がもうとても多いのです。私の体験として。ああすごいなって、昔はね、古いですけどもソニーのウォークマンがすごいね

とか、そういうようなプロダクトっていうような話だったのですが、今は大体ポップカルチャーと、国際的な理解・信頼を深めている重要なツールになっているのですね。だから本当に日本人よりも日本的なことを理解してくれているということです。

漫画・アニメ・ゲームはもう世界中に熱心な愛好者がいて、やはりそこは日本がとてもレベルが高いということもみんな分かってくれている。そこを通じて、ああ日本が好きだな、そんなような思いを持ってくれている。日本語が話せる外国人の多くは、先ほど言ったとおり、こういうようなことなのですね。この強みをやはり生かしていく、生かさな理由はない、というふうに私は考えている。ですから世界的なグローバルな視点で見て、今、日本が一番競争力を持っているのは何かっていうようなことの1つが、こうしたポップカルチャーであるっていうことは間違いない。

例えばどういうものか。皆さんおなじみの「ナルト」、世界 80 か国でテレビ放映されています。「ドラゴンボール」、世界 40 か国以上で放送されています。「美少女戦士セーラームーン」、40 か国以上で。あとは横浜でも、非常に力を入れてポケモンなんかが大行進していますけれど、ピカチュウがね、ポケットモンスターシリーズ。これなんかももう世界中の子供で知らない子供たちはいないのではないかっていうぐらい、そういった認知度です。

そういうようなことを、ちょっと今皆さんにご紹介させていただきましたけれども、じゃあそういったものを加味して、どのようなことができるかなというふうになった時に、山下ふ頭ですね、例えばですよ、日本のポップカルチャーの集積地にしたらどうだということで、アニメの館。非常に夏暑いですから、屋外だけっていうのはかなり命の危険が生じてくるってことで、やっぱり館なのかな、というふうに思っています。

で、コスプレイヤー。アニメの中で今コスプレっていうのがすごいのですね。コスプレの、様々なコンテストが世界中で行われていて、そのコスプレのキャラクターは大体日本のアニメのキャラクターに扮しているということです。メイクや衣装のオーダーメイドなんかも、そこでやっていく。ランウェイを歩いて競うショー、展開するというので、コスプレイヤーの聖地は横浜山下ふ頭だということで、世界的に山下に行くぞ、という発信力を持つ。で、当然今ですね、コスプレイヤーも高額賞金を持っていて、コンテストで優勝したコスプレイヤーは何億も報酬を得られているという。そういうことです。

あとはeスポーツですね。これオリンピックにも入ってくるという。ゲームを競うことで、世界トップランクのゲーマーたちの世界選手権っていうものの、最終決戦地が山下ふ頭であったら面白いのだろうなというふうに思っています。ここも、今ゲーマーたちも数億円、もうテニスプレイヤーとかサッカープレイヤーと、そこまでの桁には並ばないにしても、それぐらいの報酬、賞金金額を得られるスポーツに成長してきているということなのですね。

あとは漫画の館。日本と言えは漫画。何十万冊も集めた漫画リゾート。漫画喫茶ってありますね。宿泊、簡易宿泊施設になっていて漫画読み放題とあって、若い人たちにとても人気なのですが、これの最高級ラグジュアリーホテルを作るのも面白いのではないかなと。そこに人気の作家なんかが来て、トークショーをすればもう世界中の漫画ファン・

アニメファンが、もう本当に喜んでやってくるだろうということは想像に固くないなというふうに思います。

【平尾委員長】

大変申し訳ありません。ちょっと時間が押していますので、まとめていただきますでしょうか。

【内田委員】

はい、急ぎます。もうすぐ終わります。

あとはバーチャルリアリティの館っていうことで、あのみなとみらいにR&Dを構えているグローバル企業がたくさんあるのですね。その研究開発をしている最先端のイノベーション。そういうものを是非この山下ふ頭の中で、実証実験の場としてやってもらいたいなというふうに思っているわけです。

最後のページです。私としては、こんなことがあったらワクワクするなっていう意味では、あらゆるトップクラスの企業、先ほど言いました、みなとみらいにあるソニーであるとか、日産、コエーテクモ、任天堂、資生堂そしてDeNAですね。そんなような会社がどんどん関わってくれるような、最先端のテクノロジーがそこで発揮されるというような感じですね。あとは横浜トリエンナーレっていう有名なアートの祭典がありますので、そうしたアートのコラボレーションをしてもいいでしょうし。あとは横浜JCという横浜の若者たちが集まっている、集積して活動して開港祭なんかやっていて、ものすごいパワーを持っているので、そういう横浜JCの若者たちが、こうしたエンターテイメントのところに入ってきて一緒に活動したらすごくいいなというふうに思うのです。

最後に1つだけ申し上げます。やはりどんどんどんどん変わっていくっていうのはソフト力なのですね。やっぱり日本のこれまでのテーマパークの失敗は、箱物を作って終わって、古びていく。それでおしまいっていう、非常に税金の無駄遣いをし続けてきた歴史なのです。じゃあ何が勝つかっていうので、世界的にデジタル革命で勝ったのはマイクロソフトなのですよ。それは何かというと、ソフトウェアですね。どんどんどんどんアップグレード、更新し続けることによって1回つながったお客さんと、ずっとこうビジネスをし続けるってことなのです。

なので、ポイントは新しいものを更新し続ける。そして投資をし続けるという覚悟が、山下ふ頭を展開していく上で、非常に重要になっていく。あとはデジタルネイティブという世代がこれから世界の過半数の人口を占めてくるのですね。もう生まれた時からデジタルの世の中なのだっていう子たちが世界中の人口の過半数を超えているんです。ここからますます、世界が100億人の人口になっていく時に、もうほとんどがデジタルネイティブになっていくのですね。ですので、もうあと10年もしたらデジタルネイティブがメインになっていくという世の中にしっかりとフィットするようなものに、山下ふ頭はなっていかなければいけないと。そういうようなことがポイントになるかなというふうに思っています。

とにかく世界一のものを目指すという気概、ワクワクするものを横浜から世界に発信していくのだという、そうした大きな目標を持って、山下ふ頭を展開していただければな、というふうに私としては思います。以上です。すみません時間がオーバーしまして、申し訳ございませんでした。

【平尾委員長】

はい、熱の籠った。これAIを使ったのですか。

【内田委員】

はい、これはAIを使って作りました。

【平尾委員長】

へえ、そうですか。

時間がかかなり押してまいりましたので、あの申し訳ありませんけども、意見交換、今日は、ご意見をご用意してきていただいている方がいらっしゃいますので、まず藤木さんからお願いいたします。

【藤木幸太委員】

いや内田さんに僕の尺とられちゃったからもうあんまりしゃべれなくなっちゃったけど。

【内田委員】

ごめんなさい。

【藤木幸太委員】

とてもいい話でした。

【内田委員】

ありがとうございます。

【藤木幸太委員】

私、港運協会代表で出ております藤木でございます。今日私も実は意見書を出してしまして、その説明を高橋さんのようにやる予定だったのですが、急遽ちょっとお断りをしました。それはなぜかと言いますと、自分の話す内容が、山下ふ頭の歴史、あるいは港運協会のメンバーがどれだけここで汗をかいてきたかと。こういうことがほとんどなので、これを皆さん委員の前で話すと、なんか利権と捉えられないかという心配が私自身にありまして。で、今日はやめさせてもらいました。その代わりといっは何ですが、今現状山下ふ頭どうなっているか。山下ふ頭を開発するために、我々、倉庫協会も一緒になって倉

庫を新しくしないで、古くして、みんな潰して更地にしたわけです。そこでいきなり IR の話が出て、これはないだろうというところで、山中市長誕生ということになったわけなのですが、いずれにしましても、我々はそこで生業、ここで出ています地域関係団体委員という方はみんなここで生業のある方なのですね。で、逆に学識者の方たちは失礼ですけどよそ者の方なわけです。そういう中で、私は今日申し上げたいのはもう喋るのではなくてちょっと映像を見ていただきたい。これが私 5 分と 4 分の映像なのですが、5 分の方は今山下ふ頭がどうなっているか、どう使われているか。委員の皆さんあんまり足運んでないと思いますので、それをまずご覧ください。もう一つは、今笹川平和記念財団の予算で日本とパラオの、帆船、これで移動するのに、今笹川記念財団が世界で 5 年をかけて 100 人の海洋人材を育てるというプログラムをはじめまして。それで世界からみんなその参加者を募ったらもう多すぎちゃって。で、みんな論文書かせたりして、ところが論文書くって 12 歳から 24 歳までに限定していますので、その子たちが 3 月にこの前 2 週間かけて、帆船「みらいへ」でパラオまで行った、その 1 人の女の子が報告したのです。それが 4 分ありますので、申し訳ないですけどいいですか。

【平尾委員長】

はい。

【藤木幸太委員】

5 分は現場の話、4 分はその彼女の報告と。これをちょっとご覧いただきたいと思いません。

【平尾委員長】

お願いします。

<動画再生>

【藤木幸太委員】

今こういうイベントで使っていただいているのですね。

これは高橋さんのとこでやっていますね。

これは Harley-Davidson の横浜での最初のイベントです。

これはランバイク練習であり、小学生ですね、低学年の子が足でこぎ漕いでやるレースなのです。このレースから卒業した子が、今サッカーだとか色々な世界で一流選手になっているのですね。運動能力が非常に高い。

<動画停止>

どうもありがとうございました。何が言いたいかって言いますと、今横浜は 5 隻大きい

客船が同時につける港になっているわけです。これはもう横浜市と港湾局も本当によくやってくださって。それはいいのですが、大型の客船がついても、地元には全然お金落ちない。みんな観光バスが並んで、それで鎌倉行ったり箱根行ったり、中には東京に行ってしまうというような状況で。ところが横浜の場合は横浜に着岸してただ人が観光行くだけじゃないのです。横浜で入れ替えるそこで降りた人がいて乗る人が、新しい人が入ると、これで横浜はある程度、お金が落ちているわけなのですね。で、例えば長崎ですとか、他の港は朝着いて夜出てっちゃって昼間はみんなどっか行っちゃうので、もうそれこそ迷惑になっているぐらいの話なのですね。で、そういうことをまず気がつくと、今の女の子の報告を聞いたら、あれは同じクルーズの出発点が横浜であってもそれはもう教育的な見地もあれば彼女たちの人生感とかそういうもの全て変えているのですよ。先週それを、その話を彼女たちと一緒にしたのですが、横浜はやっぱそういう世界の起点っていうのはここへ来て刹那的な快樂を求めるのではなくて、やはりここで教育された横浜が自分の心の故郷というふうに思えるような場所にするというような開発を是非お願いしたいと、こう思います。以上です。

【平尾委員長】

藤木委員どうもありがとうございました。

坂倉委員、なにかご意見ございますか。時間が押ししておりまして恐縮ですけども。

【坂倉委員】

具体的なお提案については今後の委員会の中で発表させていただきたいというふうに思うのですが、少し方向性だけお話しすると、この市民の意見にもたくさん出てきているのですけれども、山下ふ頭の交通アクセスっていうのはあんまりいい場所じゃございません。ましてや入り口からその先端までも歩いても相当な距離があるってこともあります。元町の駅から行くのもかなり困難です。そうやって考えますと、今現在で横浜市がここに対しての交通アクセスをどのように考えているのかっていうのはあまりよく示されていないので、是非、やるということを決定はもちろんしてないと思いますが、案として考えられることについて次回以降でご提示いただければというふうに思います。

いい悪いはともかく IR の時には元町の地下鉄の駅、横浜高速鉄道は、海の方へ曲がって行って、今実はあそこに車両の基地を作る土木工事を行っているのですが、その先に海の方に入って行って山下ふ頭の先端の方に、駅を作るというような案も実は検討されていきました。で、それが可能であるのであればこの開発に大量輸送機関の1つとしてそういうことも検討した方がいいのではないかなというふうに思います。それと臨海部の道路建設については、この資料の中にもありますけども、横浜港臨港幹線道路というのが、もう相当昔に計画されていて。これについては神奈川区の恵比寿町から中区の本牧ふ頭までというふうに計画をされているのが、ちょうどMMの中をかって下に海の方へ潜ったところで今止まっているのですけれども、その先は本牧ふ頭まで一直線で結んでいくっていうのは計画をされていますので。これは国の計画としてそういうふうになっているので予算

も当然国が出すということですから、これを積極的に利用していただくと都心臨海部と山下ふ頭、そして関内・関外地区のトライアングルをうまく回遊性が取れるような道路になるのではないかなと思いますので。これもここを利用する時に合わせるような形で完成するようにすべきではないかなということだけ申し上げておきたいと思います。以上です。

【平尾委員長】

はい、坂倉委員、貴重なご意見ありがとうございます。時間が大分押してまいりましたけども、まだ、今までの皆さん方のプレゼンテーションあるいは意見交換でまだ足りなかった点あるいは付け加えたい点がございましたら。アトキンソン委員。

【アトキンソン委員】

先ほど生産年齢人口の話が出ましたので、それに対して1つ考えなきゃいけないことがあるのです。

世界の生産年齢人口は、特に先進国を中心に減っていくって話がありました。しかし、規模が全然違うってということも考えてもらいたいと思うのです。例えば、EUを見てみるとピークから今まで3.1%しか減ってなくて、去年は増加しました。それに対して、日本はピークからもう16.5%減っています。生産年齢人口ってというのは先進国を中心に緩やかに増えていって緩やかに減っていく。それに対して日本は極端に増えていって1995年をピークにしてそこから極端に減っていくってことは特徴的なものなので、ここに出ている海外の例は人口動態が全く違う動きをしています。例えば先ほど事務局からの海外事例で、アメリカの小学校の話があったのですが、日本では小学校を増やすというようなことって極めて考えづらいことなので、どこまで海外の比較ができるかっていうことはもう少し考える必要があるのではないかと思います。

もう1つあるのですが、事業計画を立てるに当たって、市としては奪い合いをどう考えるかっていうことを真剣に考える必要があります。別のところの話になりますが、東京都で見えますと、都心部の千代田区とかに対してどんどん再開発が進むような形を認めていって活性化をするっていう政策を進めています。それによって、都心部に人が集まるような形になっていますけど、人口が減っている中で、それは23区の外からどんどん都心部に一極集中する中で、さらに東京駅の周りに一極集中をしているっていう現状があります。片方では「23区の外側に人が奪われるようなことを防ぐように」という明確に矛盾している政策が一緒に進んでいます。何を申し上げたいのかというと、事業者からするとこの開発をするとなると市の中の一極集中を促すようなことになれば事業者としては儲かりますけど、市としてはもうほとんどゼロサムゲームになってしまいますので、やっぱり追加的な需要を促すようなことをやるのは必要だと思います。

先ほど高橋さんだったと思いますが、税収のプラスになるっていう話で、横浜市の一部の税収がここに移るってことになれば何の意味もないわけなので。そういうことも含めて、事業化をしていくに当たって、山下ふ頭の追加的な需要を生み出すようなことだけではなくて、横浜市全体としてプラスなるかどうかという観点も取り入れるべきもので

あって。事業者はそういうことを一切考えませんので、是非考慮していただきたいと思います。以上です。

【平尾委員長】

アトキンソン委員ありがとうございました。WEBでご参加の幸田委員、どうぞご発言ください。

【幸田委員】

はい、どうもありがとうございます。今、坂倉委員がおっしゃられた交通アクセスは大変重要だと思いますので、先ほど私も内陸部との結節点、東京湾との結節点ということで申し上げましたけど、現在、港湾局がどう考えているか、今後どうするか、これは大変重要な論点だと思いますので、是非取り上げていただきたいと思います。

それで私が1つ別の点でお願いしたいことがあります。それは先ほど高橋委員が社会保障費の増大、それから市民の意見からも社会保障費の負担増に耐えられるようにといったような意見が出ているのですけれど、よく自治体の財政当局が説明するのは、税収が減っていくけど、社会保障費が増えていくと。単純にこう説明していることが多いのですけれど、実はその中身をよく分析をする必要があると。と言いますのは、市のそういった財政の制約要因ってというのは一般財源ベースで考えないといけません。で、私もいくつかの横浜以外の政令指定都市でも色々と分析したことがあるのですが、実は一般財源ベースで見ると社会保障費の負担よりも物件費の負担の方が大きいという自治体は結構多いのです。従ってファクトシートの最初の時にも出ていましたけれども、社会保障費、実額でこうなるよってという表がありましたけれども、そうではないと。それから物件費の区分がされてなかったのですけれど、一般財源ベースでどのような推計をしているのか、またその根拠は何か、もう少し詳しく教えていただきたい。次回で結構ですので、市の方をお願いしたいと思います。ややもすると、ああいう数字だけですと横浜市民の方がかなり誤解する可能性がありますので、もう少しそのファクトの部分について詳細なものを提供いただきたいと思います。そのお願いでございます。以上です。

【平尾委員長】

貴重なコメントありがとうございました。

涌井委員、今日は全体を通じて何かご意見やご感想ありましたら。

【涌井委員】

大変参考になりました。取り分け藤木委員と高橋委員からのプレゼンテーションは非常にある種の現実の側面から頭に染み込んだという感じがいたします。

私やっぱり考えますと、我々急いで考えていく必要もあるのですけれど、先ほどお話があったように飛鳥田市政の大きな目標から50年なのですね。従ってこの計画も50年とは申しませんが、かなりロングスパンで考えていかなきゃいけない。一気に呵成に再開発を進めていくということでは必ずしもないと。そういうことを考えた時にシティリザーバ

一って言いますかね。ギチギチに全ての計画を決めていくっていうのではなくて、非常に柔軟で時代に即応できるようなスペースを一定規模確保しておくっていうことは極めて大事だと。それは防災の対応のためにも実は大変重要であって、機能を全てはめ込んでいくという考え方には不賛成だなということを改めて確認をいたしました。それからもう1つ、やっぱり港湾の機能は基本なのですね。この港湾の機能を睨みながらどう土地利用していくのか、この点も非常に重要な戦略的な視点なのではないかなと。この山下ふ頭の計画というのは、海水面の利用計画と、それからいわば陸域の利用計画、これが上手にマッチングしたものでなければならない。ここのところを忘れないでしっかり考えていかなきゃいけないのではないかと。

最後に、市域全体のマスタープランですね。横浜市の有り様とこの山下ふ頭がどういう関係なのか。これをいつもフィードバックしながら考えていかないと、非常に部分最適にはなるのだけど全体の最適にならないということが起こり得ますので、この点も心がけなきゃいけないという感じを持ったと。以上でございます。

【平尾委員長】

はい、涌井委員、どうも貴重なコメントとご意見ありがとうございました。もう時間が迫っておりますので、私の不手際で議事進行が遅れまして、申し訳ありません。

それでは、ここで皆さん方の意見はございませんでしょうか。なければ、次に私の方から1つよろしいでしょうか。今回が4回目の委員会となりますので、意見書の説明や学識者のプレゼンテーションもほぼ一巡いたしましたので、今後どのように進めていくか、事務局の方から何かお考えがあれば、一言お願いしたいと思います。

【事務局】

はい、今後の進め方についての事務局の考えでございますが、今回は今頂いたご意見に対する対応と、併せて委員の皆様から意見書の説明ですとか、あとプレゼンテーション。それをやった後に、一度これまでの委員の皆様のご意見ですとか市民意見などの結果などを振り返りながら意見交換を行っていただき、答申として今後盛り込むべきまちづくりの方向性なんかを少しこの場でご議論いただければと考えてございます。そして、その後の委員会において、引き続きご議論を深めていただきまして、年内を目途に答申を取りまとめたいただけたらと考えてございます。以上でございます。

【平尾委員長】

はい、ありがとうございました。確かに、答申策定に向けて、今ご説明があったような進め方がよろしいのではないかと私は思いますので、特にご異議がなければこの方向で進めていきたいと思いますが皆様いかがでしょうか。

【(委員一同)】

異議なし。

【平尾委員長】

はい、ありがとうございます。それではこの方向で進めていきたいと思いますので、委員の皆様方、今後ともよろしくどうぞ協力をお願い申し上げます。それでは、本日の議事は全部終了いたしましたので、進行を事務局の方にお返しいたします。

【事務局】

はい、ありがとうございます。本日はお忙しい中、長時間にわたりまして、意見交換等いただきまして誠にありがとうございました。次回の日程等につきましては、後日お知らせいたしたいと思います。以上を持ちまして閉会させていただきます。ありがとうございました。